



流所奉公

如三月月記

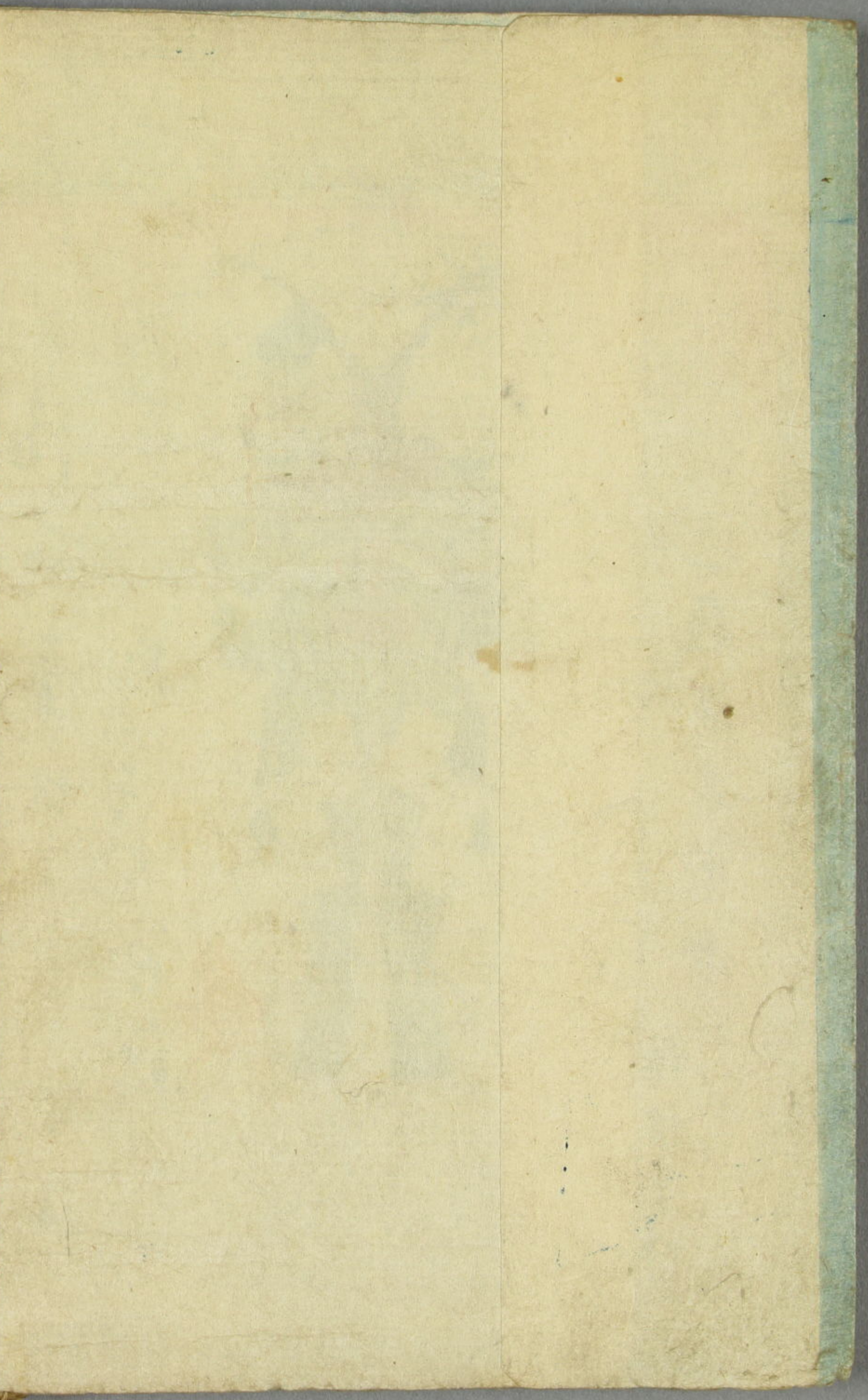
万幸 慶賀也
一掃肩 岩虎 画

錦橋堂持



~13
3906
2





門へ13
號3906
巻2

重寶記

天齡此榮願得

吾立勲功願得
長生
安寧

此壽文ハ南極星

福祿壽の呪文め



毎夜こまをこべん
さあへく腹を振れば
わびうとくさう
ふゆ長久ふあ
ふるまるとらう

御所奉公東日記三編序

夫悪人言賢者猶仰天而唾唾不汚天還汚己身られバ時政の妻

教の方猶毛重成の軒曲も豈本望の達を乞天正直の頭を守

護まハ阿波局の誠忠も環の局の實義のとも時あらむ明なる

唯幾重小も哀愍の止あるハ御臺の上藤松嶋と義秀の心中

あり己高聞不達一婚姻の成べたを尼公の嫉妬小害られ

局貞節を推守くて自殺の後小侍女賤機と小忠義と尽ま

る小契約の男の為小辛苦小落る委まハ後の巻小あらんせや

りや御所及び奥向を勤仕の婦人ハ戒草小奉公の名をのりて

此外題あり設らう

嘉永六丑歲春稿成
同 七寅初春發市

萬亭應賀識



北條式部丞泰時

相模守

義時の嫡子也始め

江間太郎頼時と

の賢勇の

良臣の

祖父

時政父の義時母牧方の

邪悪と諫め北条九代の栄此臣の

仁恵小依所後執権とつて

和田左衛門尉義成

桓武天皇の後胤杉下太郎義宗の嫡男三浦一黨の

司の鎌倉草創の臣の三代の君小仕諸士の別黨

たり賢勇智仁の忠臣なり北条の非法あるを竟小叛



和合戦とい建保元

癸酉年

五月三日

討死

時小

六七歳

實朝卿の御墓の

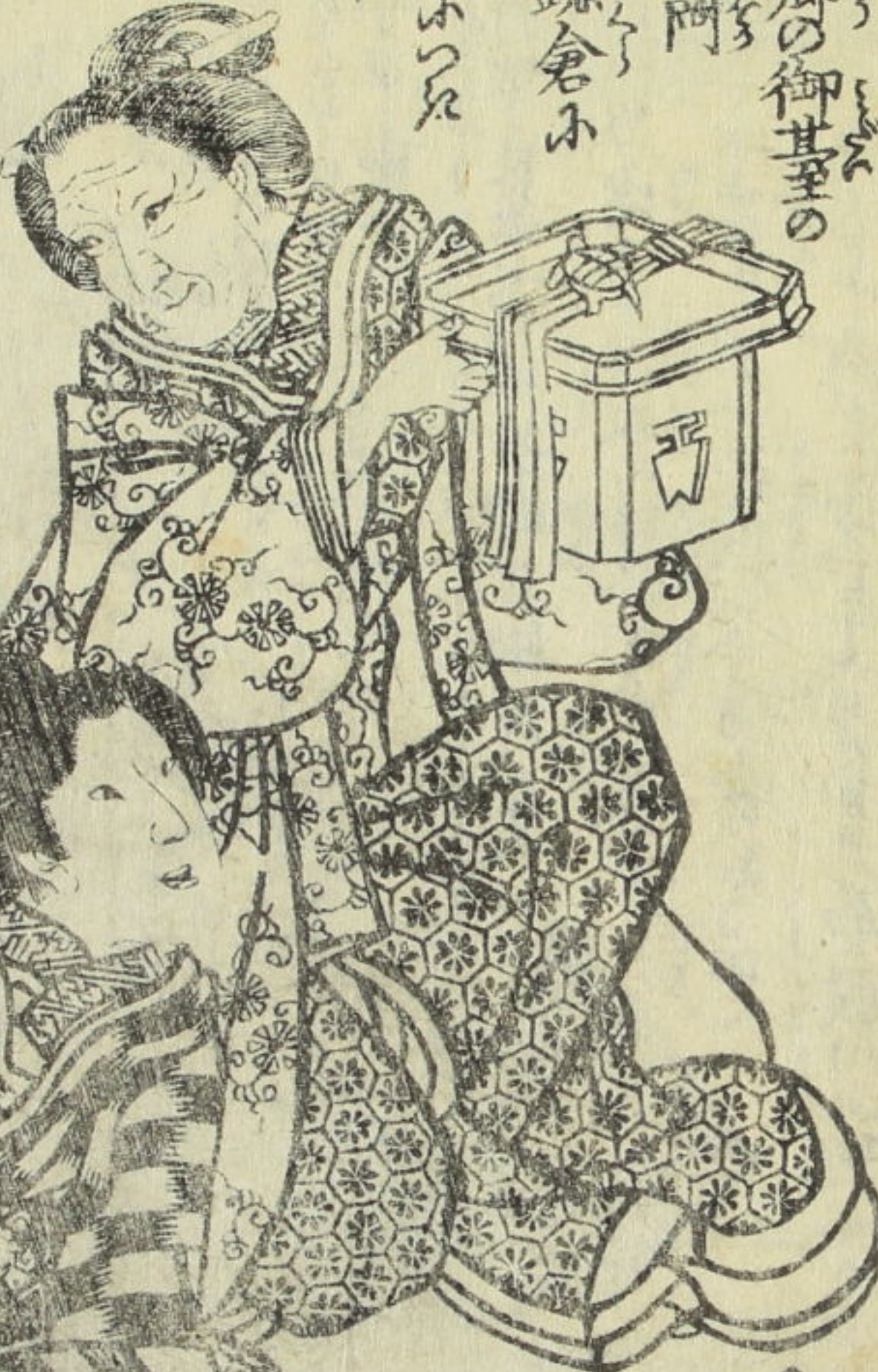
老女歌門

御堂鎌倉小

御下りふつ

大納言

信清



老女阿波局の待女鳴戸

維新の局の部屋小つる

成人誠義ふり侍女の

上小召つる局小

忠義を

尽せり



御眼が光り附ら

老人れも武藝を

詩歌の道小達一才者

深きこ男も及ぶ

而小あ

頼家郷の召仕兵竹
 羽林頼家郷伊豆
 小宮せらりや
 重忠の
 一言ふ
 助られ尼
 御墓の御側小
 在りて君の生害の翌年姫君と産
 白次郎平重忠
 鎮守府將軍良兼七代秩父守武綱四代島山
 庄司重能の男也天下無双の勇士とよ仁義を
 奉りて諸臣を惠じ君子の國に今も人の知る所
 稀毛重成の諺言ふよりの元久三年六月廿日武刃三腰川小わて



戦死を
 時
 四十一歳

三木佐郎
 兵衛の伴
 洙吉
 京都の
 本店より
 雅さらし鎌倉
 富士見小路の
 出店小来り
 諸大名方の
 用向と閑
 松島の
 侍女殿機と
 縁結の
 男あり





Vertical columns of handwritten Japanese text located above the seated woman.

Vertical columns of handwritten Japanese text located to the right of the seated woman.

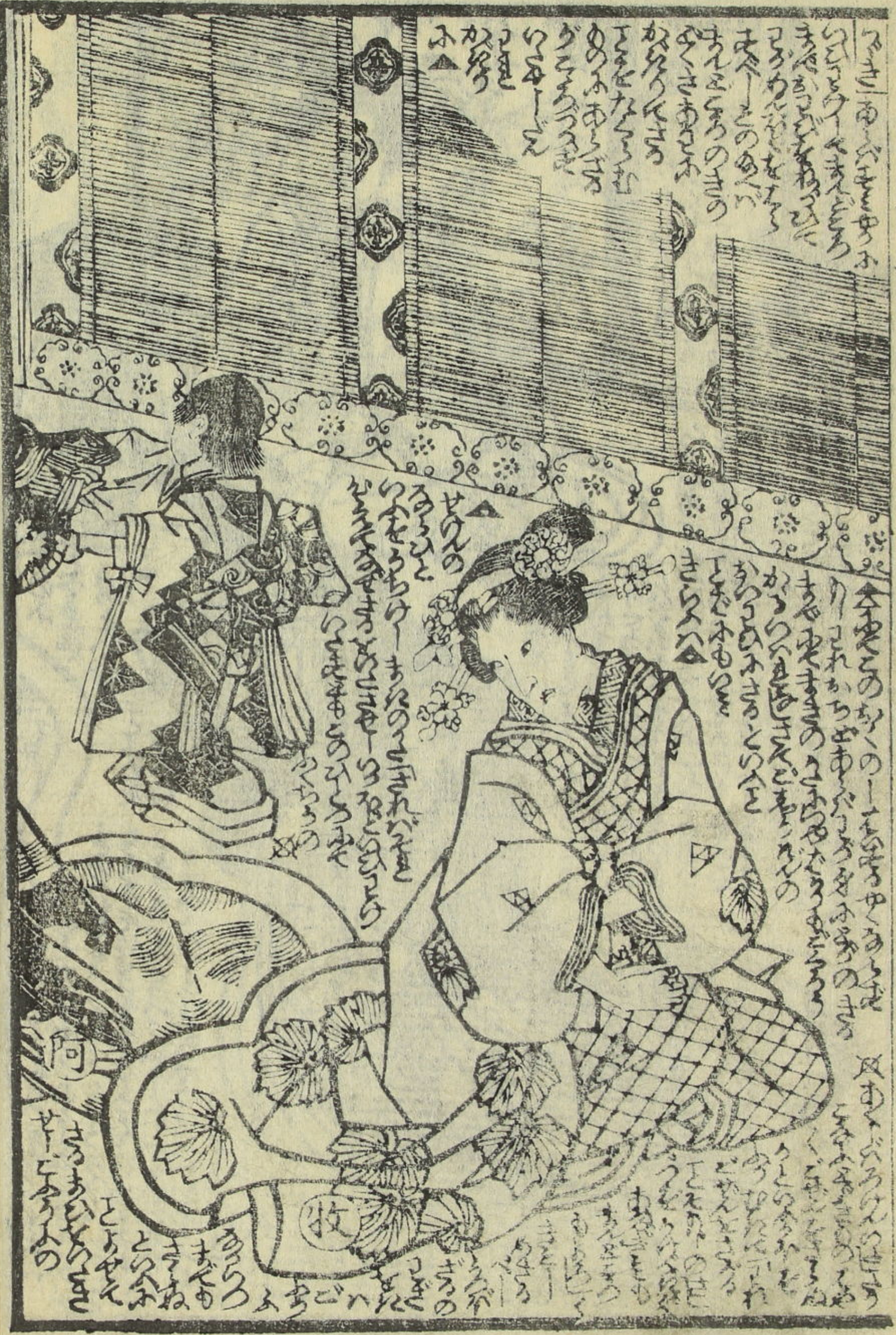
Vertical columns of handwritten Japanese text located below the seated woman.

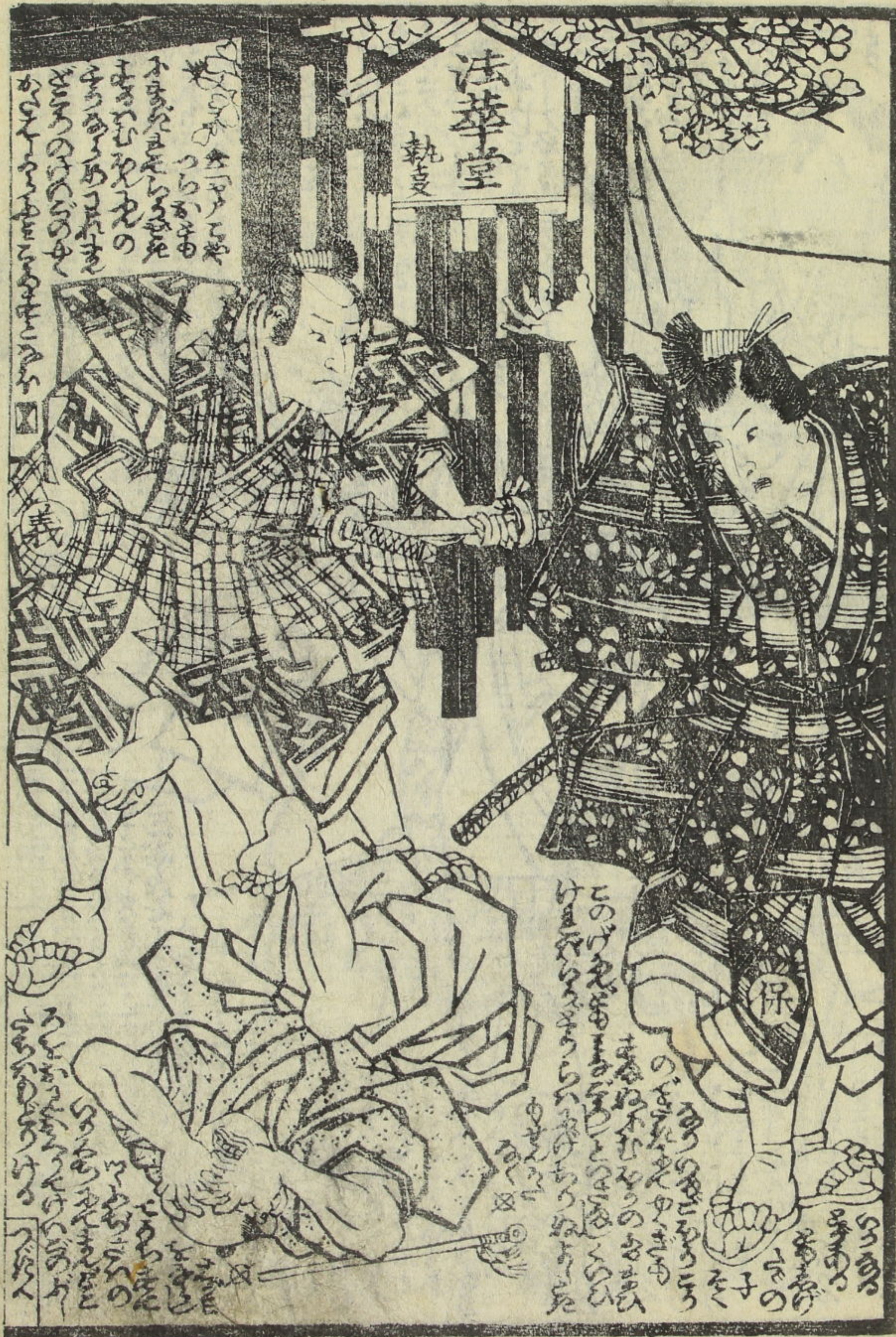


Vertical columns of handwritten Japanese text located above the seated woman.

Vertical columns of handwritten Japanese text located to the right of the seated woman.

Vertical columns of handwritten Japanese text located below the seated woman.









Handwritten Japanese text in a vertical column, located above the woman's head in the left illustration.

Handwritten Japanese text located to the left of the woman's lower body in the left illustration.

Handwritten Japanese text in a vertical column, located below the woman and her table in the left illustration.



Handwritten Japanese text in a vertical column, located above the woman's head in the right illustration.

Handwritten Japanese text in a vertical column, located to the right of the woman's head in the right illustration.

Handwritten Japanese text in a vertical column, located below the woman and her table in the right illustration.

Handwritten text in the upper right section of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower right section of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower left section of the left page, written in vertical columns.

己未春錦橋堂新板

寢小便大奇藥 一包代
 ねしんべんのたまきやく
 のりどまふた病赤く花も大小児
 男女とも一包みえ作る良方あり

清淨白妙 一包代
 精製 卅二銅
 けいじやうはくめう
 まろくけいじん
 白くあるひやたの

御藥固齧散 大包代百銅
 小包代三銅
 御薬 固齧散
 功 一ぬけをーらたをーらみ血
 能 一血りづー一たがきとを
 用ひまのうあふはじくおまひ

庄 地本 錦繪 山田屋庄次郎
 江戸中橋廣小路

女中文章手箱 中本形 全冊
 女中文章手箱
 東菴京山作

雜鶴笹湯壽 紅摺 大本 一冊
 雑鶴笹湯壽
 山東菴京山作

源氏一猛圖會 全同 撰
 源氏一猛圖會
 冊同 画

紅梅百人一首 半紙本全一冊
 紅梅百人一首
 女用文章入

美玉百人一首 中本形全一冊
 美玉百人一首
 女用文章入

應賀作芳虎画





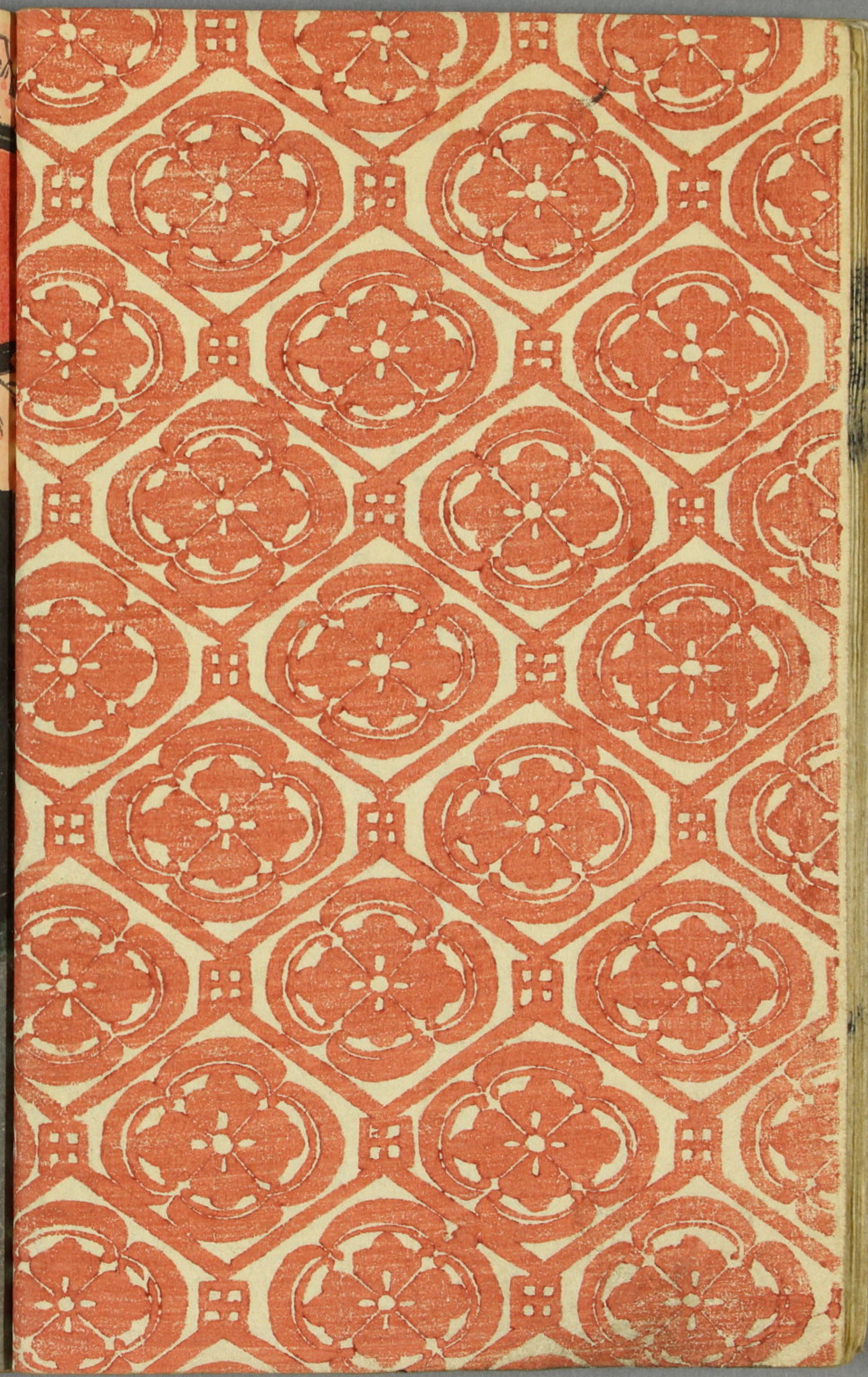
東日記
三編

一猛齋芳虎画

錦橋堂

壽祥

下



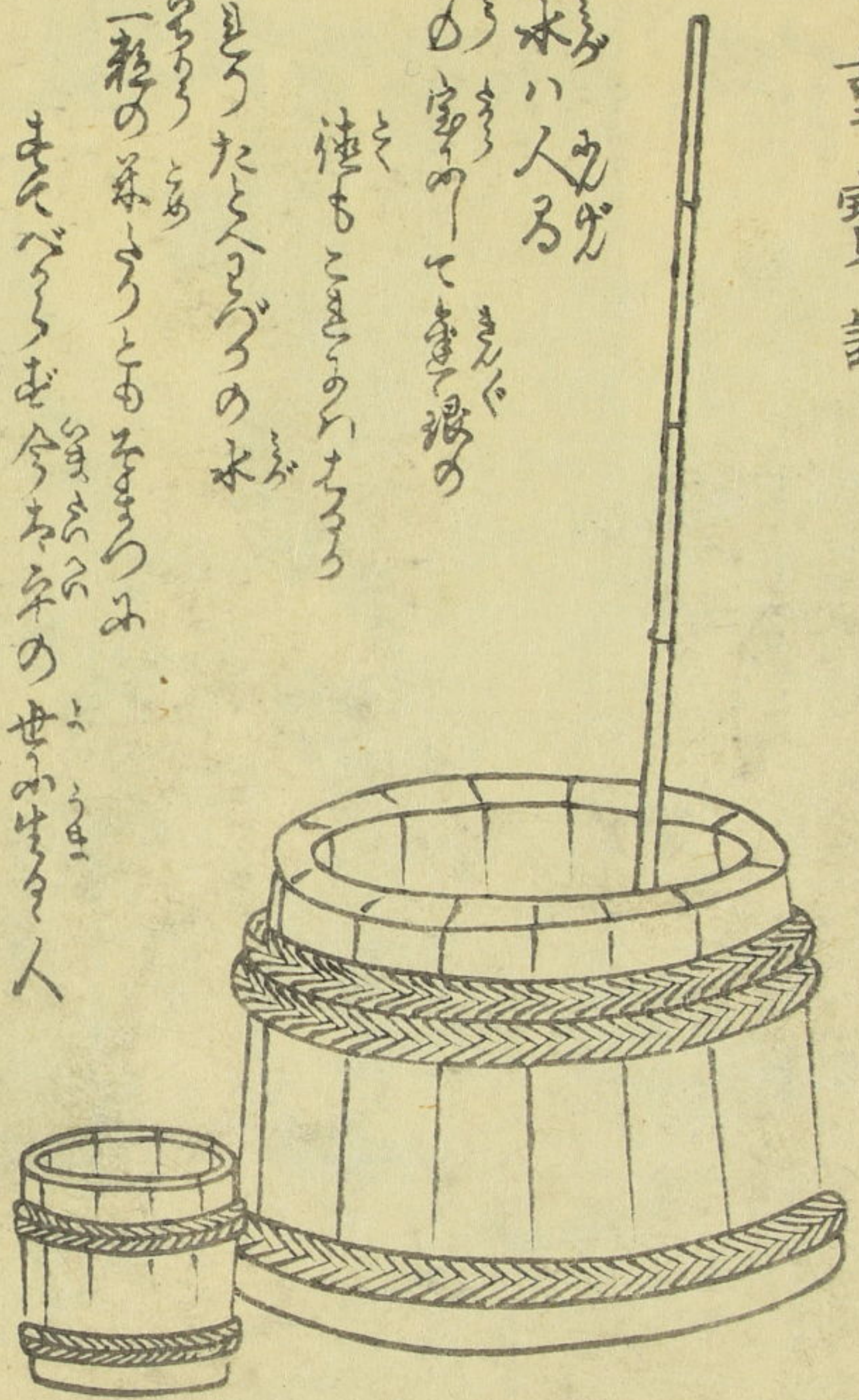
上の巻のついでに江戸浦田の松島町のついでに
 まつたついでに江戸浦田の松島町のついでに
 まつたついでに江戸浦田の松島町のついでに
 まつたついでに江戸浦田の松島町のついでに



このついでに江戸浦田の松島町のついでに
 まつたついでに江戸浦田の松島町のついでに
 まつたついでに江戸浦田の松島町のついでに
 まつたついでに江戸浦田の松島町のついでに

重寶記

多と水い人る
 一生の宝のてまの銀の
 徳も...
 劣らうた人づつ水
 一粒の糸もつともなつみ
 まんぢつらむお今ち平のせのせう人
 多くいの大忠をまむ貴族さみ
 ろくや大切ふむくじみる今の親



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script (kyogen), filling the upper and middle portions of the right page. The text is arranged in several columns, with some characters appearing to be in katakana or a specific dialect.



ナ
世
音

ナ
世
音



あつたのの
あつたのの
あつたのの

あつたのの
あつたのの
あつたのの

あつたのの
あつたのの
あつたのの



あつたのの
あつたのの
あつたのの

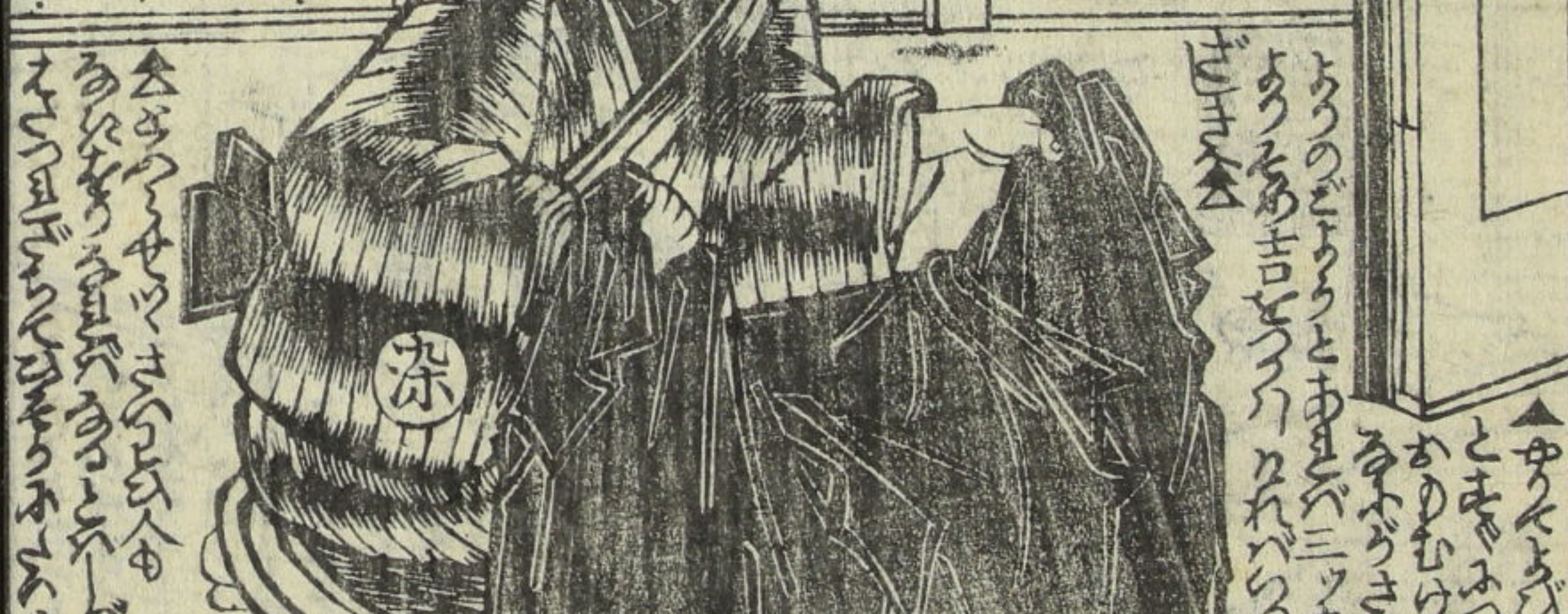
あつたのの
あつたのの
あつたのの

あつたのの
あつたのの
あつたのの



まゆりのあつらひ
つゆのふせあせ
うさへあも
もねかねが
あつらひ
のせそ
いぢを
まじらふ
ぢまぜ
といひ
あせ

Shōhaō
Shōhaō
Shōhaō
Shōhaō
Shōhaō
Shōhaō
Shōhaō
Shōhaō



まぢらふ
ぢまぜ
といひ
あせ

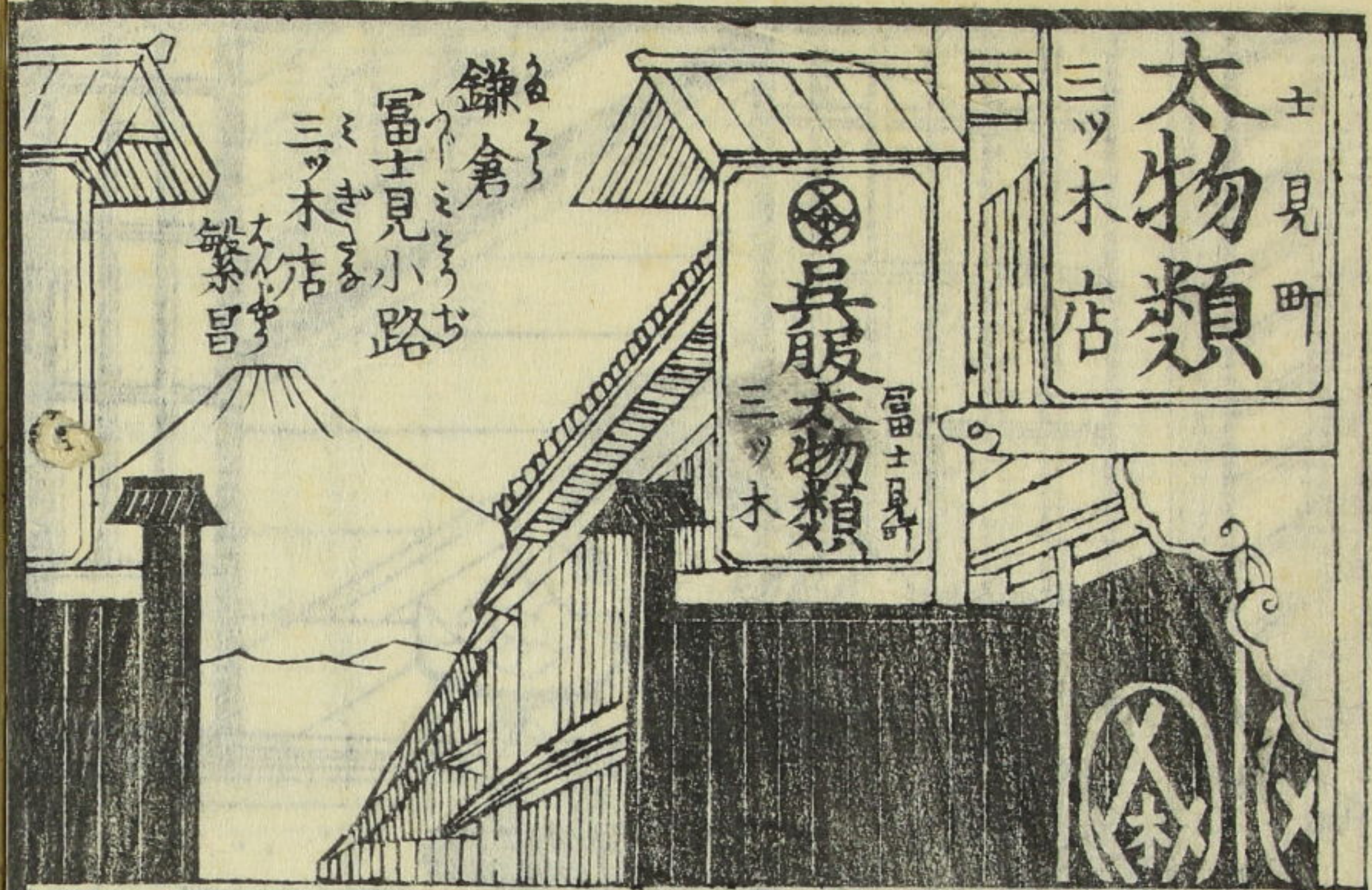
つぎまぢらふ
ぢまぜ
といひ
あせ

まぢらふ
ぢまぜ
といひ
あせ

己未初春錦橋堂新板目錄

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---|---|---------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| <p>無病養生手引草 上九翁京山作 下立齋廣重画</p> | <p>宮城野 欵討白石咄 全二册 孟齋作 好寅画</p> | <p>海所 奉公 日記 九編 万亭應賀作 十編 孟齋好寅画</p> | <p>教草女房形氣 十九編 山東菴京山作 二十編 梅蝶樓國貞画</p> | <p>日利備手深紫 十九編 金水作 二十編 國貞画</p> | <p>五拾三驛 初編 雪住作 六編 芳虎画</p> | <p>伊賀越欵討物語 全二册 孟齋作 好寅画</p> | <p>造紫梅最紙 十編 梅彦作 揃 芳虎画</p> | <p>庄 錦繪問屋 江戸中橋廣小路 山田屋庄次郎</p> |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---|---|---------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|

右の人の内のから又女ののらむひ
又ハキウキウのあふふよる百感をこ
むきき長壽の事とてこころをさ



火の用心

一猛齋芳虎画

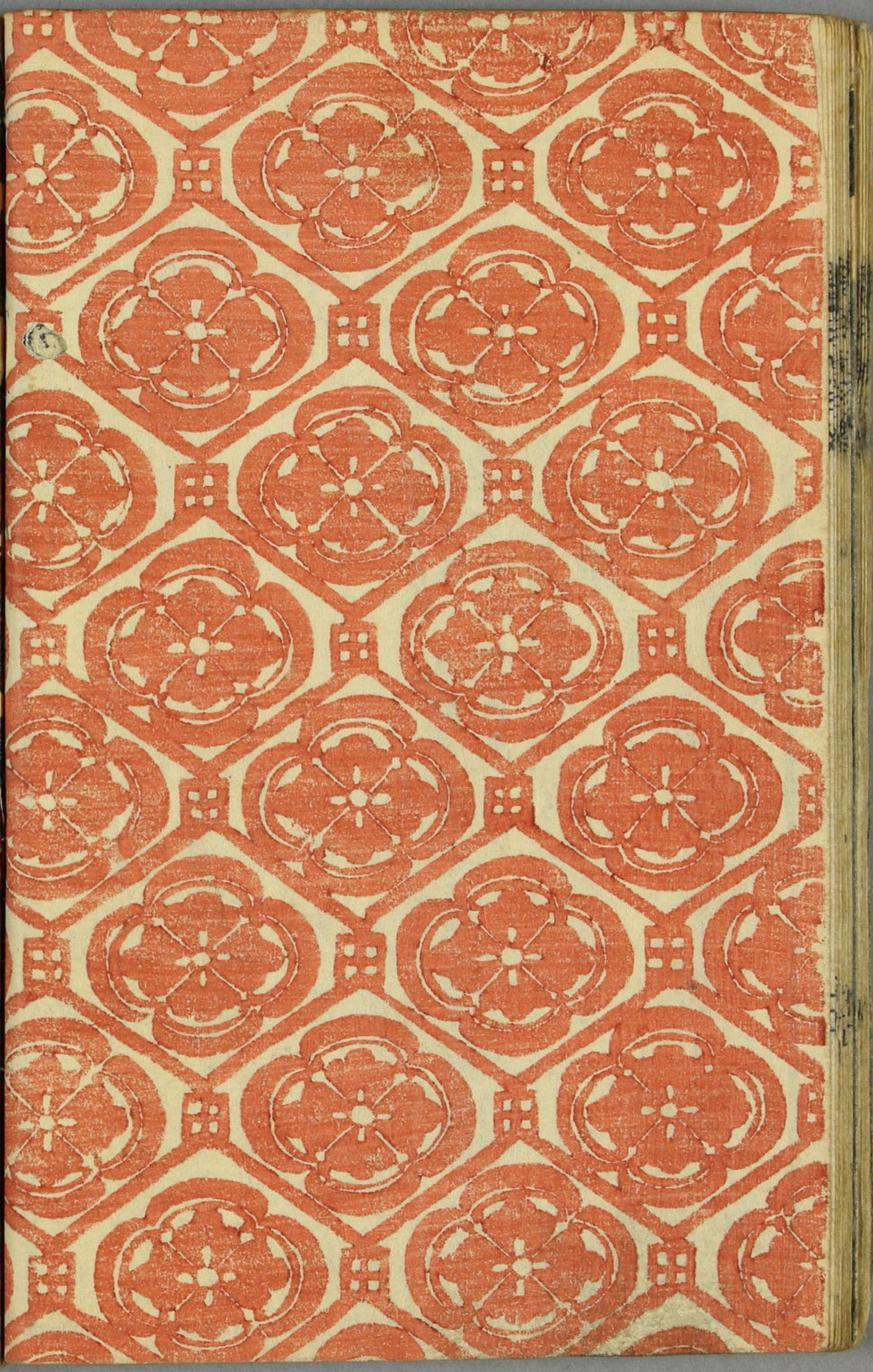
箱帳

芳虎應賀

△此の箱帳は、火の用心を教へるものなり。火の用心は、火の起るる所を察し、火の起らざるやうに用心する事なり。此の箱帳は、火の用心を教へるものなり。火の用心は、火の起るる所を察し、火の起らざるやうに用心する事なり。



御所奉
策日記
編四



重寶記

出火の角の以ては方々

ありけるの形あり

大切の物ハ

少くもけりて

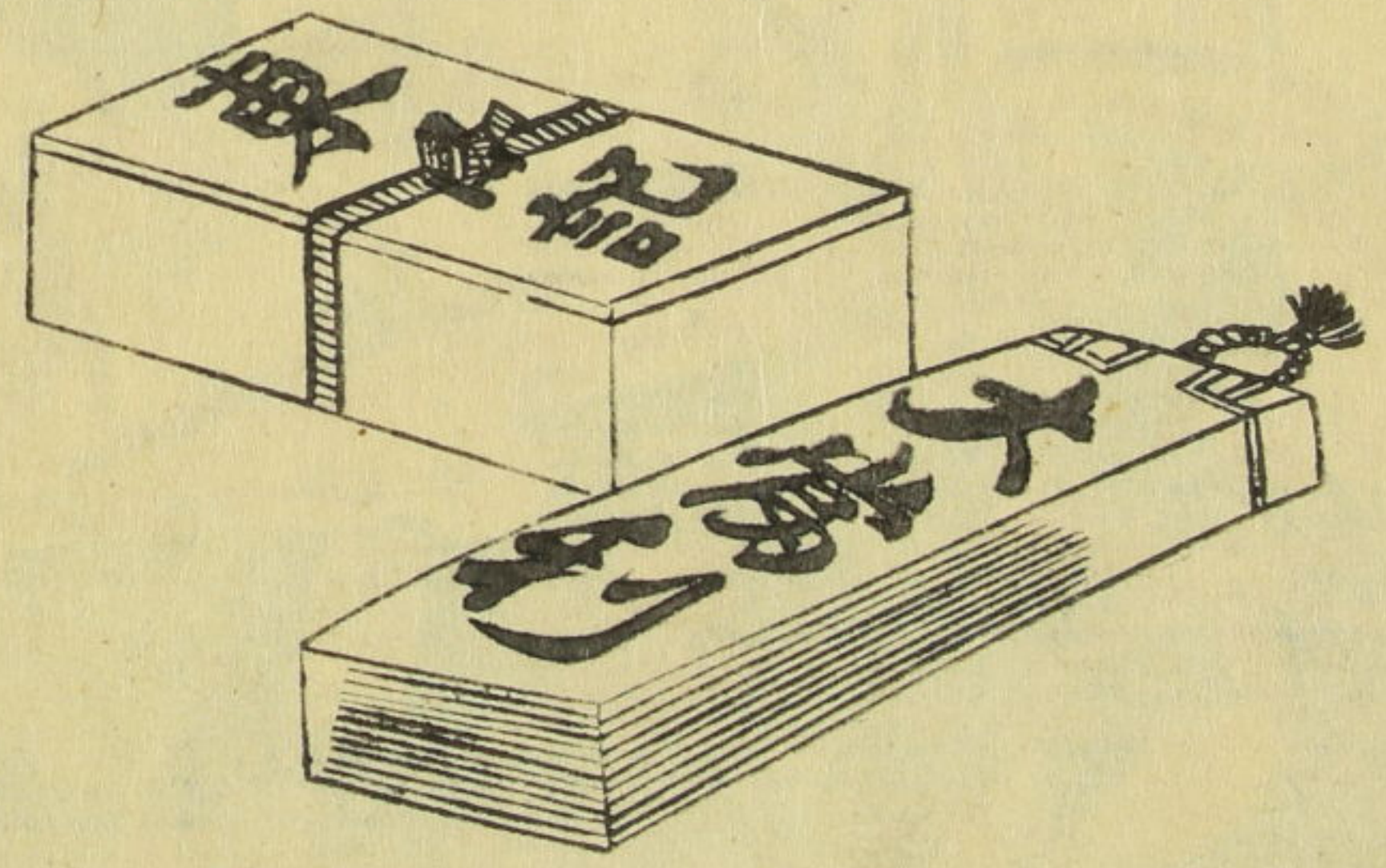
油新ある所ハ

間より入付の

助けては家紙

同けりて人の心ありん

是れ人も片付是を志すべし



御所奉公東日記四編序

夫相州鎌倉の昔鎌子の公鹿島參詣時此由比の里小宿り玉いける夜

靈夢ふ任所持の鎌を今の大藏の松岡小埋王あて故其郡名茲小発る

尤此地四神相應されば漆屋時忠平將貞盛上總介直方源頼義皆

此地小住り就中頼朝卿ハ殊小當所ハ幡宮を信トて勸請の式敷祭

あり頼家實朝の二將を以て鎌倉の三代と云時小予彼地一覽小趣一ハ

昔の柳然宮今ハ名木林々なる山野とあり權々たる臣家の跡ハ青々たる田

畠とありて其名聊土民等の口碑小残り昔の春の風ハ吹ぞ最肌寒

く先立ハ唯涙無氣小見る心多るね此小冊ハ時代を摸擬して時

め昔を著せども強ち是非を不可論

嘉永七甲寅年初春新刻

万亭應賀誌





三浦平六兵衛尉平義村

義村の義成男從子

三浦大助

義明の末

鎌倉草創

の

義村の妻見崎夫人

尾御堂

の

の

の

の

の

の

の

の

あはれとて用ひざ不和と
ありげぬ義成の直言誠不當と

善哉君

臣ありが善哉君のこふ
つたて義成と不和とあり
一門の密計を

一且權を振
て從五位の下
駿河守に
多々其の
嫡子若狭守義村
小至て父子兄弟五百
余法華堂にて自
害し悉滅したる時
室治元年六月五日



北條相模守平義時

時政の息男尾御堂の

見當り

父の跡を

統まへ

執権を

勤りて邪悪の者なき後
陸奥守に任ぜり

武藏守朝雅

京都の守護人六角堂

東の洞院小宿所あり妻ハ時政の

娘あり牧の方の毎々寵ふあり御堂所

御迎の節重保と争論あり後ハ

謀叛の張本なり仍て鎌倉あり

追討使を向けられ悉く滅亡し及びり

六十二歳

元仁

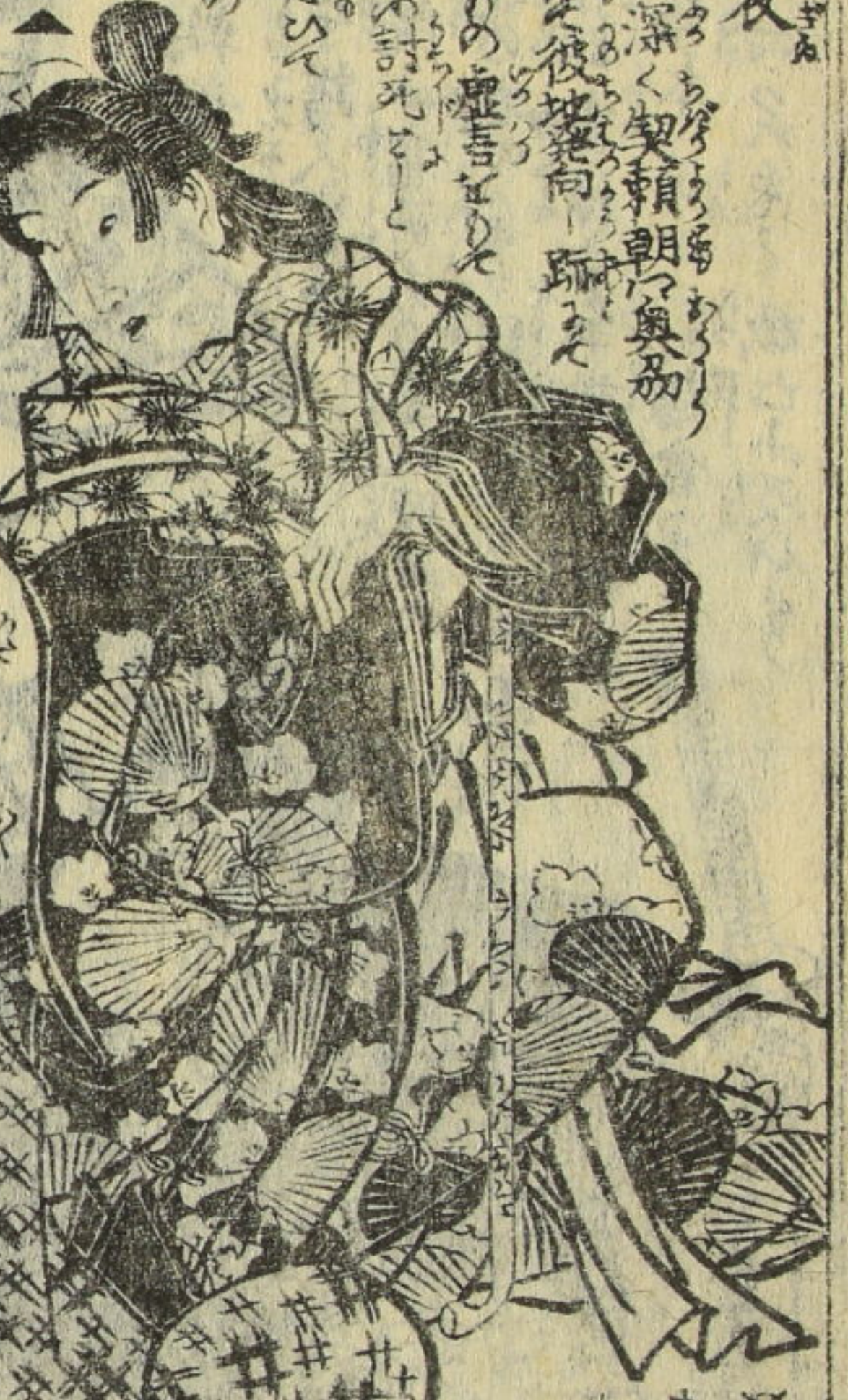
元年

六月

卒

徳津遊女袖衣

此遊君の重忠と深く契頼朝の奥加
正氏の御重忠御後徳津向一跡を
日増遊女を慕ふの遊言をりて
重忠奥州の合戦の討死をりて
告ぐ遊女誠と思ひて
歎めども重忠との
中小産じ子の
と書し認め妹の



安重兼一 鉄伴

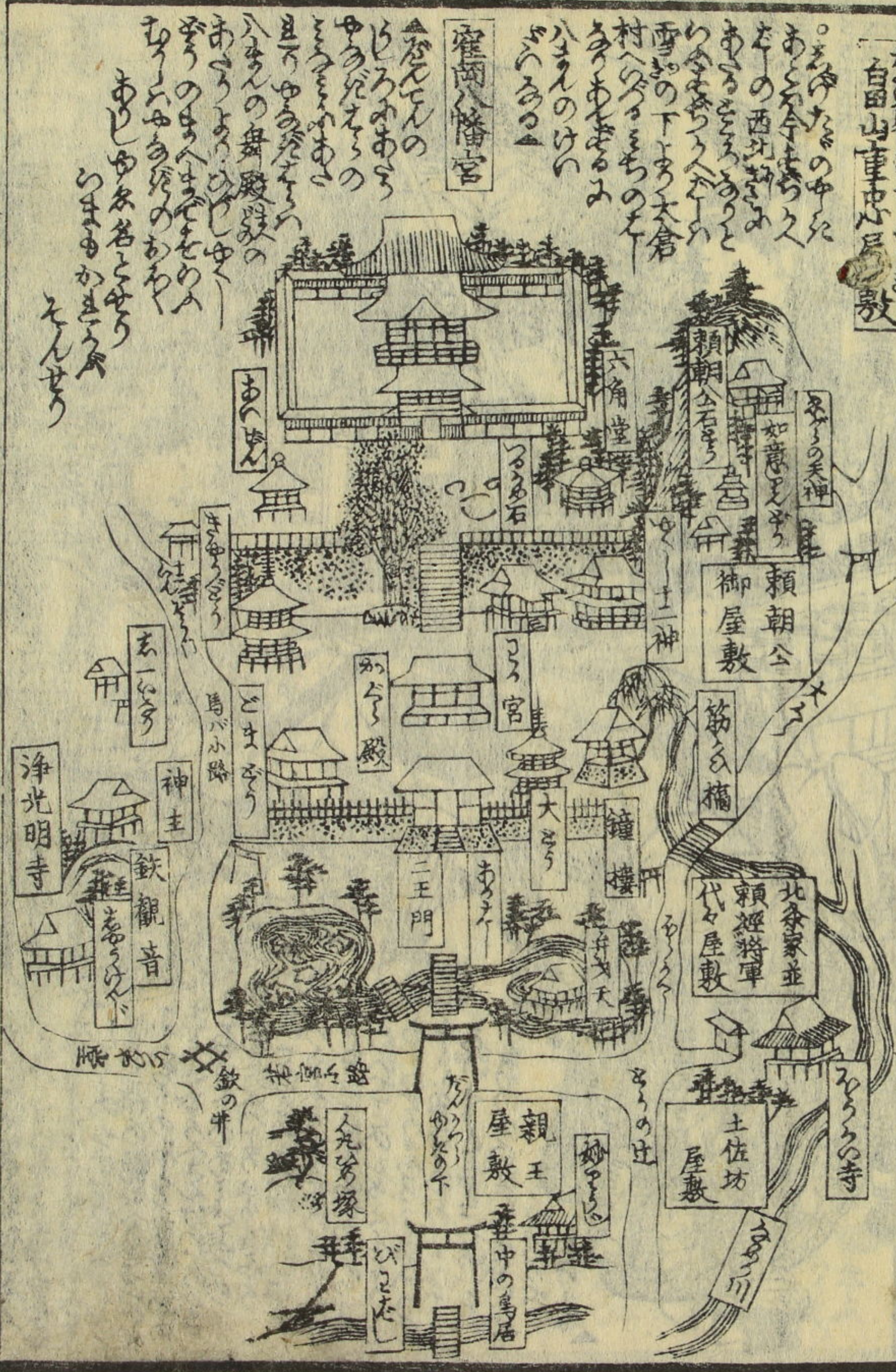
重忠武州恋の遊の
遊君の馬小請さめ

方へこれを送りて
終小自守せり
懐む
甚
重忠子重慶
重忠重忠の遊君の腹みかき
一候のふもを憐れむ女の縁小

以養育せし後不出家と違
さす重忠亡びて後謀叛の
沙汰ありて鎌倉より討る
を向い

白山重忠屋敷

○あやうの中
あふ今もあふ
との西北
あふるさふあふ
りふさふらふ
雪の下あふ大倉
村へさふさふ
さふあふさふ
八まのけい
さふさふ





あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

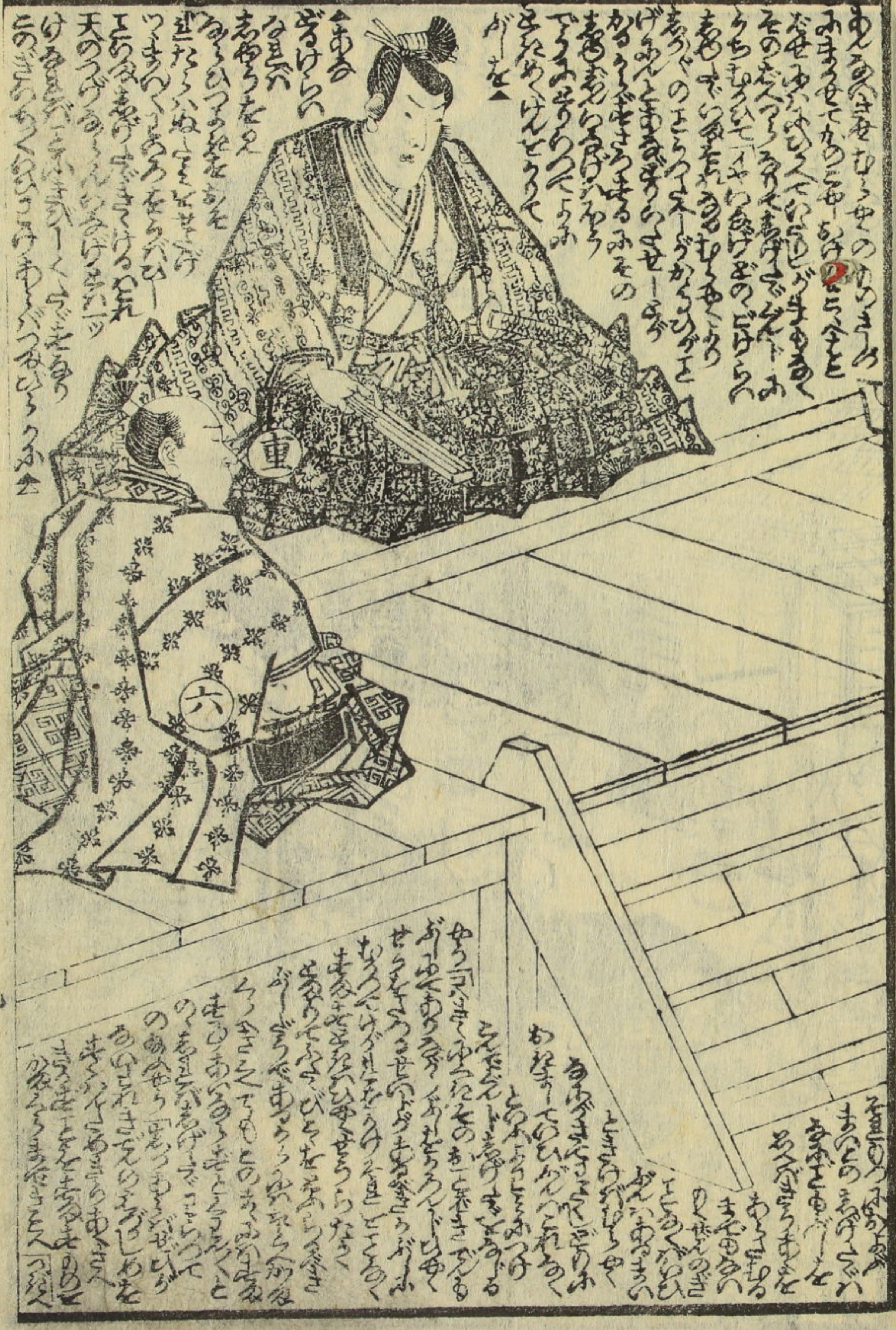
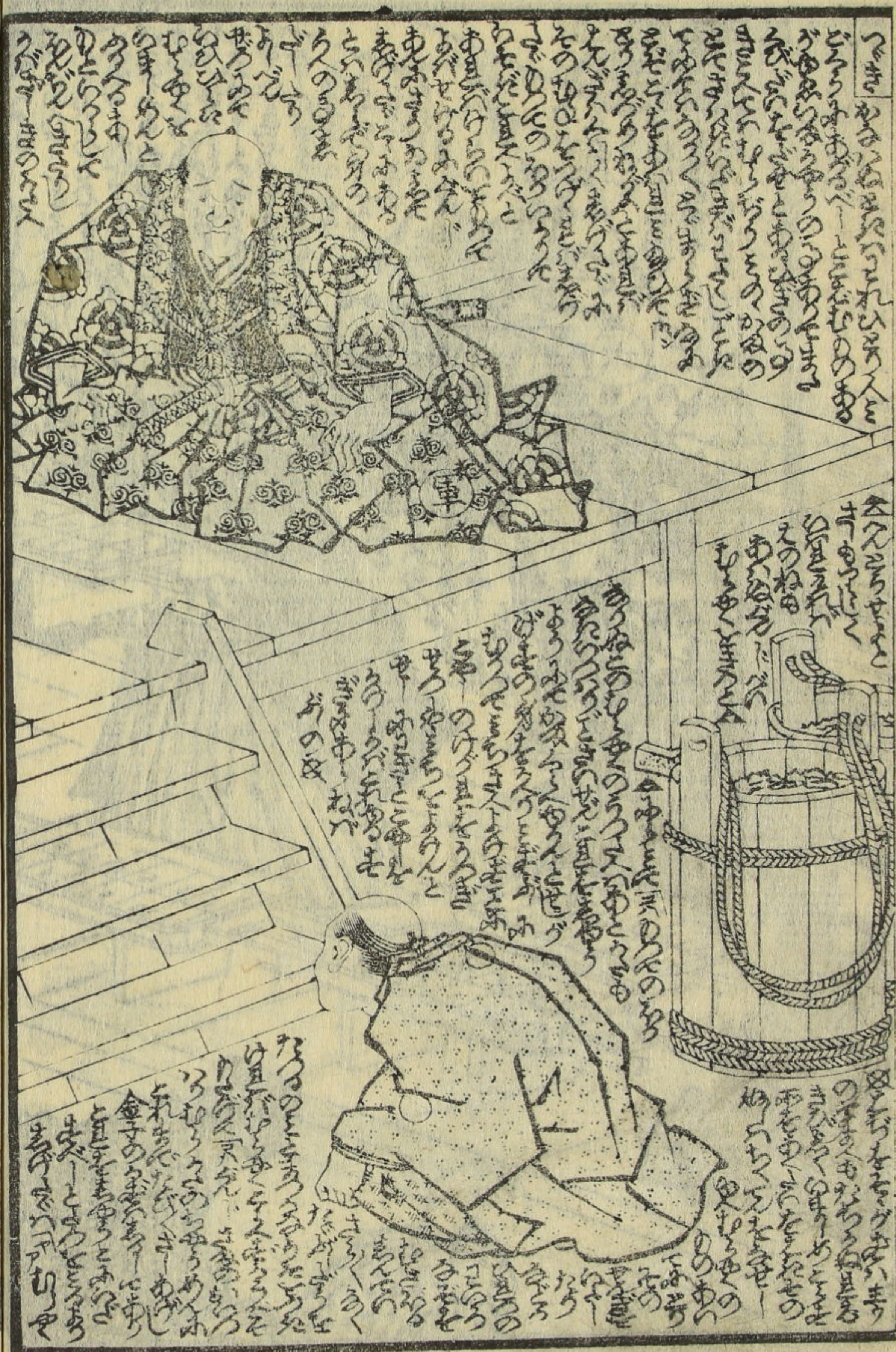


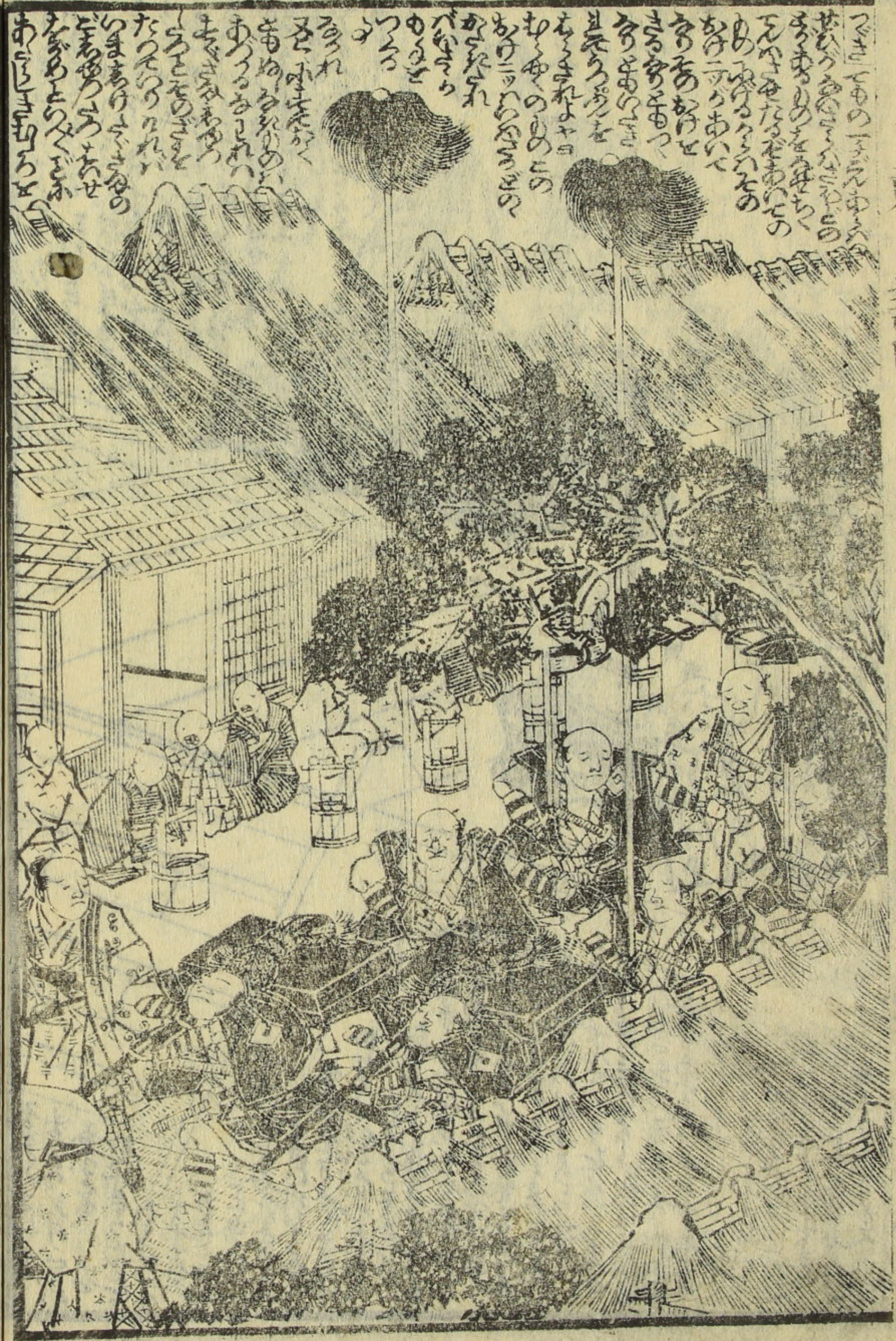
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの



東日語





ついでにこの一頁は、
 東田記の巻頭として、
 町並の賑わいを、
 人の往来の様子を、
 物のあはれ、
 町の繁栄、
 など、
 いろいろと、
 描き出さる。



この一頁は、
 東田記の巻頭として、
 町並の賑わいを、
 人の往来の様子を、
 物のあはれ、
 町の繁栄、
 など、
 いろいろと、
 描き出さる。

壬子春錦橋堂新板

寐小復の大奇薬
一色代
三銅

小児男女とも一色を治る良方

精製 **白妙**
一色代
三銅

清浄

固齒散
大色代百銅
小色代廿銅

御薬

應賀作 芳虎画



庄
地本
錦繪

山田屋庄兵衛

菖蒲文筆箱
中本形山
全冊京山

東菴作

雌鶴笹湯毒
紅摺
大本

山東菴京山作

忠義七星録
二編
三編
四編

軒文車乾坤作
錦朝樓芳虎画

葛葉九重錦
五編
一陽齋

萬亭應賀作
豐國画

塵塚物語
三編
一陽齋

山東菴京山作
豐國画

一猛齋芳虎画

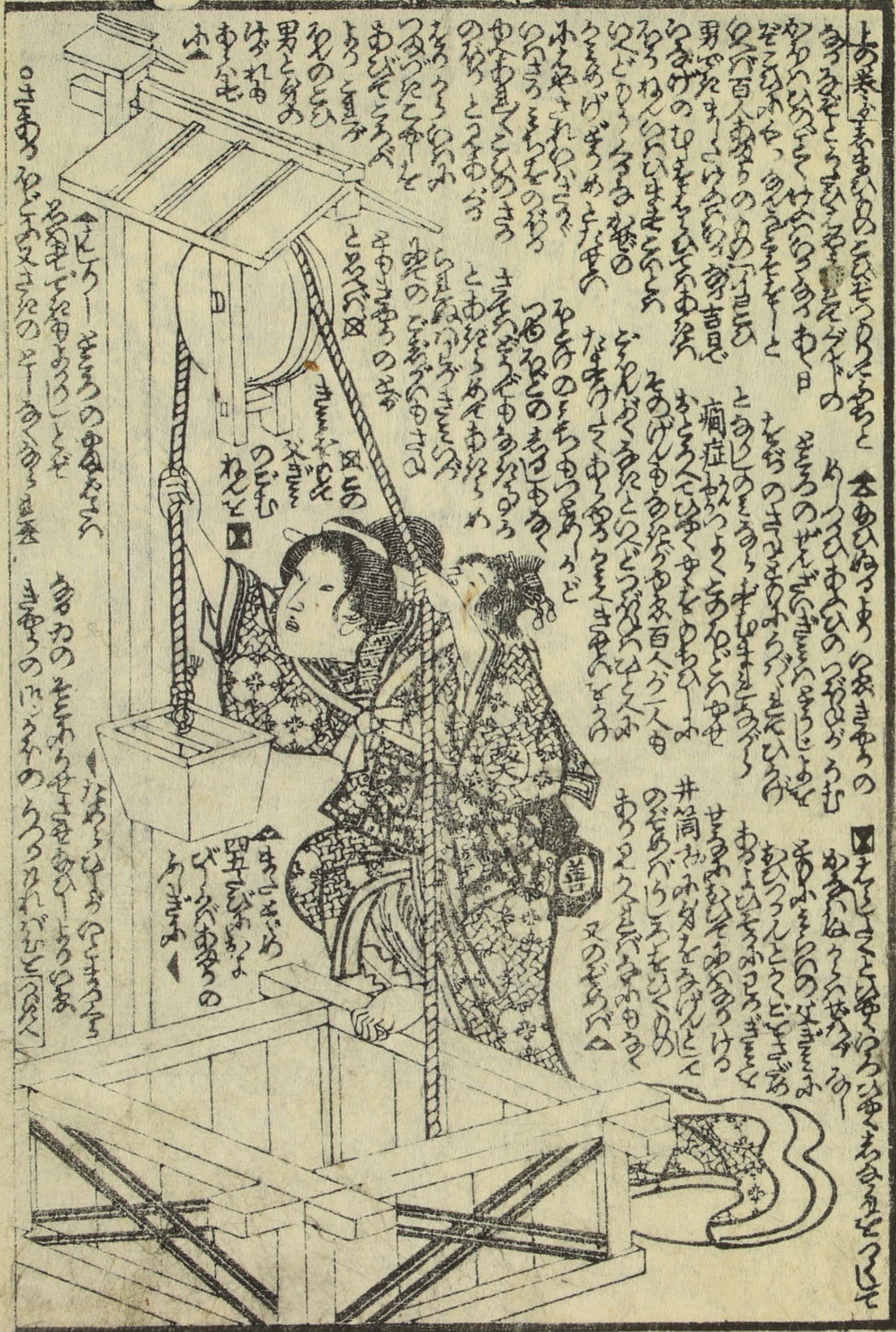


下

万亭應賀作

錦橋堂壽梓

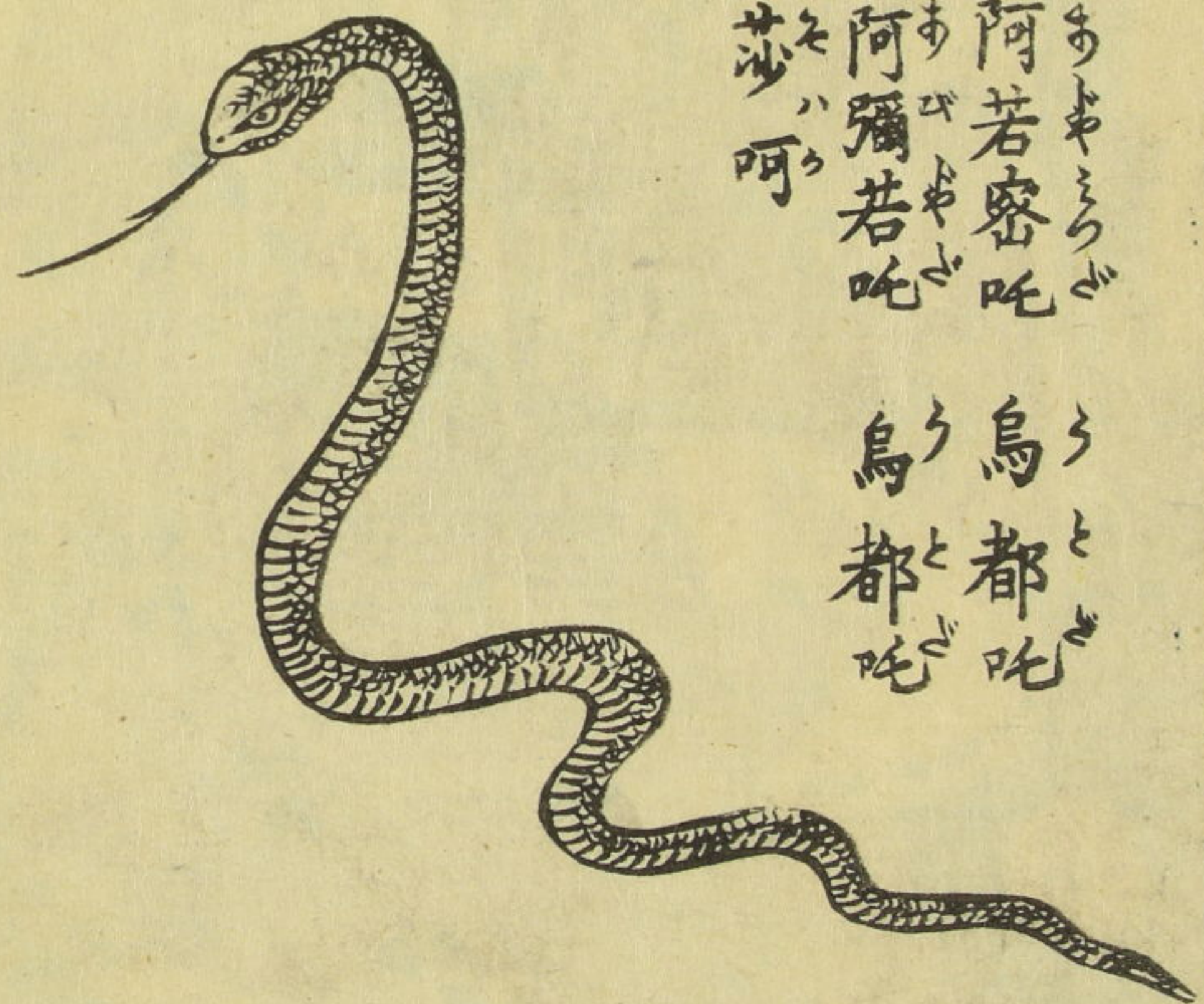




上の巻...
 男と女の
 中...
 水の車
 井筒...
 毎朝...
 毎夜...
 呪...
 盗...
 祿...

重寶記
 目低帝
 具者吃
 狗羅帝吃
 此咒文ハ
 北辰の大神咒
 胡捺波...
 毎朝毎夜
 あまを唱へる
 呪羅盜羅を
 祿をさぐるもの

阿若密吃
 阿彌若吃
 莎呵
 鳥都吃
 鳥都吃



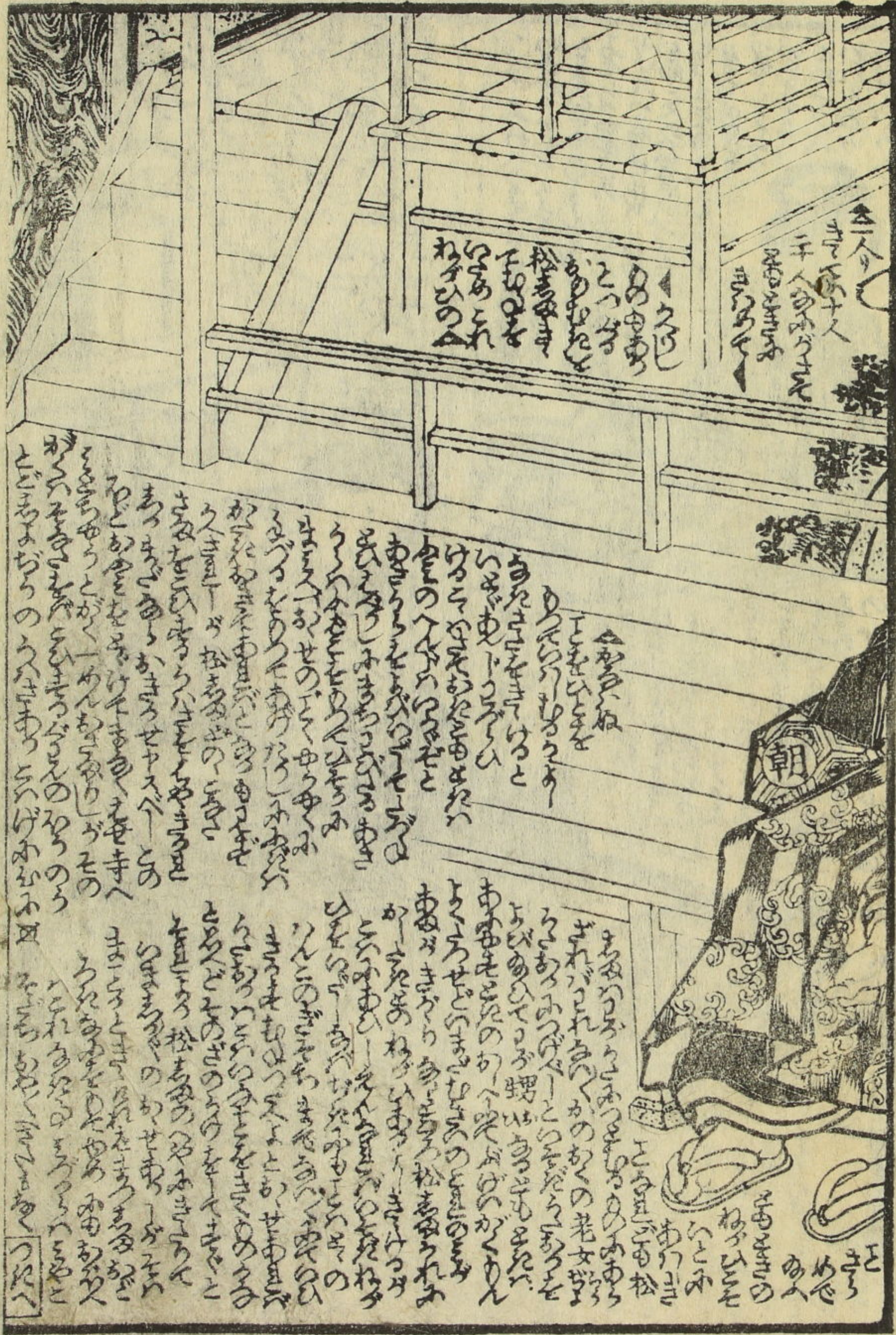
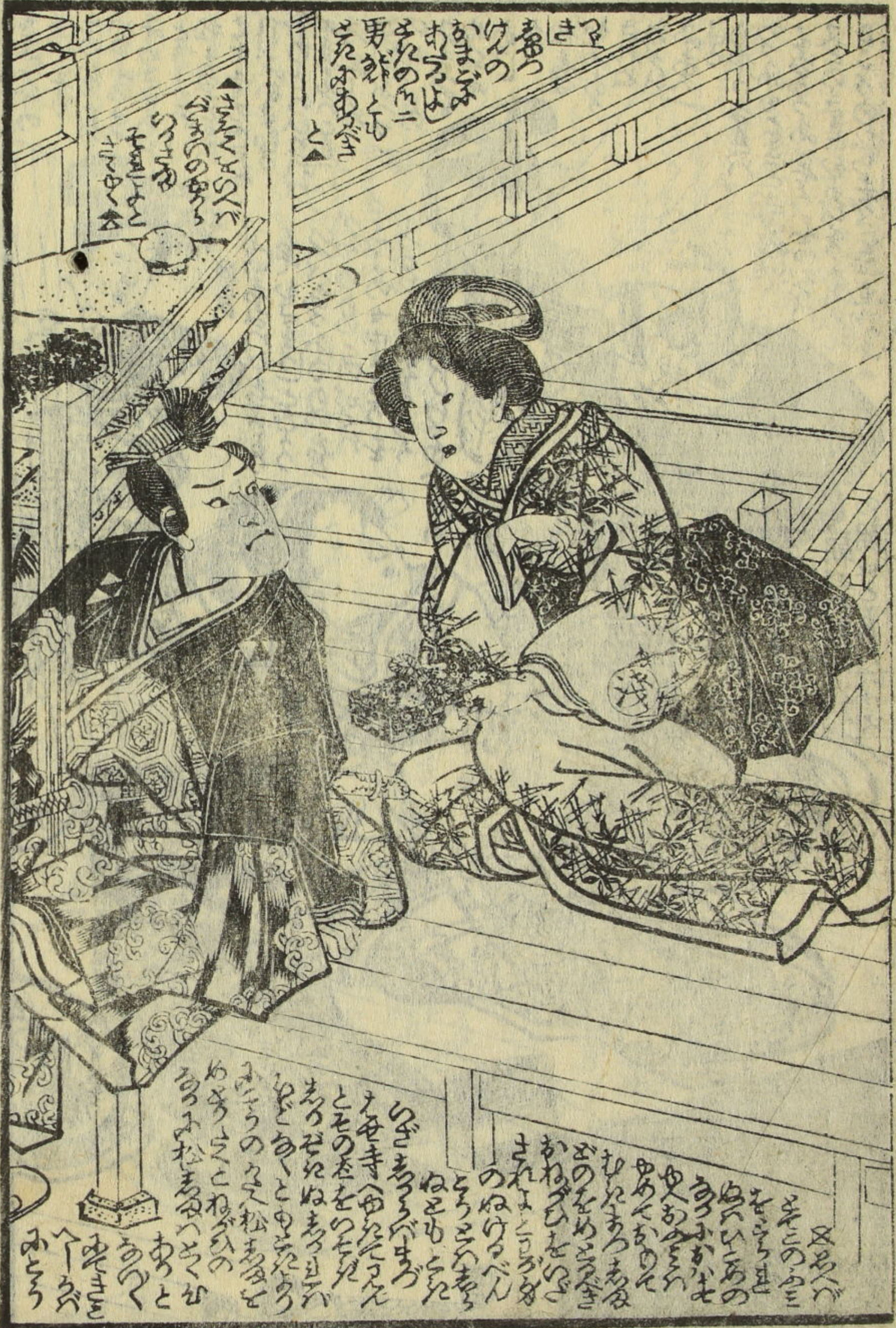
此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、ある家があった。その家には、ある女がいた。その女は、ある日、ある男と出会った。その男は、ある村の頭人だ。その女は、ある村の頭人の娘だ。その男は、その女と結婚した。その男は、その女と結婚して、ある村の頭人になった。その男は、その女と結婚して、ある村の頭人になった。



此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、ある家があった。その家には、ある女がいた。その女は、ある日、ある男と出会った。その男は、ある村の頭人だ。その女は、ある村の頭人の娘だ。その男は、その女と結婚した。その男は、その女と結婚して、ある村の頭人になった。その男は、その女と結婚して、ある村の頭人になった。

此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、ある家があった。その家には、ある女がいた。その女は、ある日、ある男と出会った。その男は、ある村の頭人だ。その女は、ある村の頭人の娘だ。その男は、その女と結婚した。その男は、その女と結婚して、ある村の頭人になった。その男は、その女と結婚して、ある村の頭人になった。





嘉永五壬子春新版目錄

鞆女房形氣
京山作
豊國画

品定五人娘
同作
芳虎画

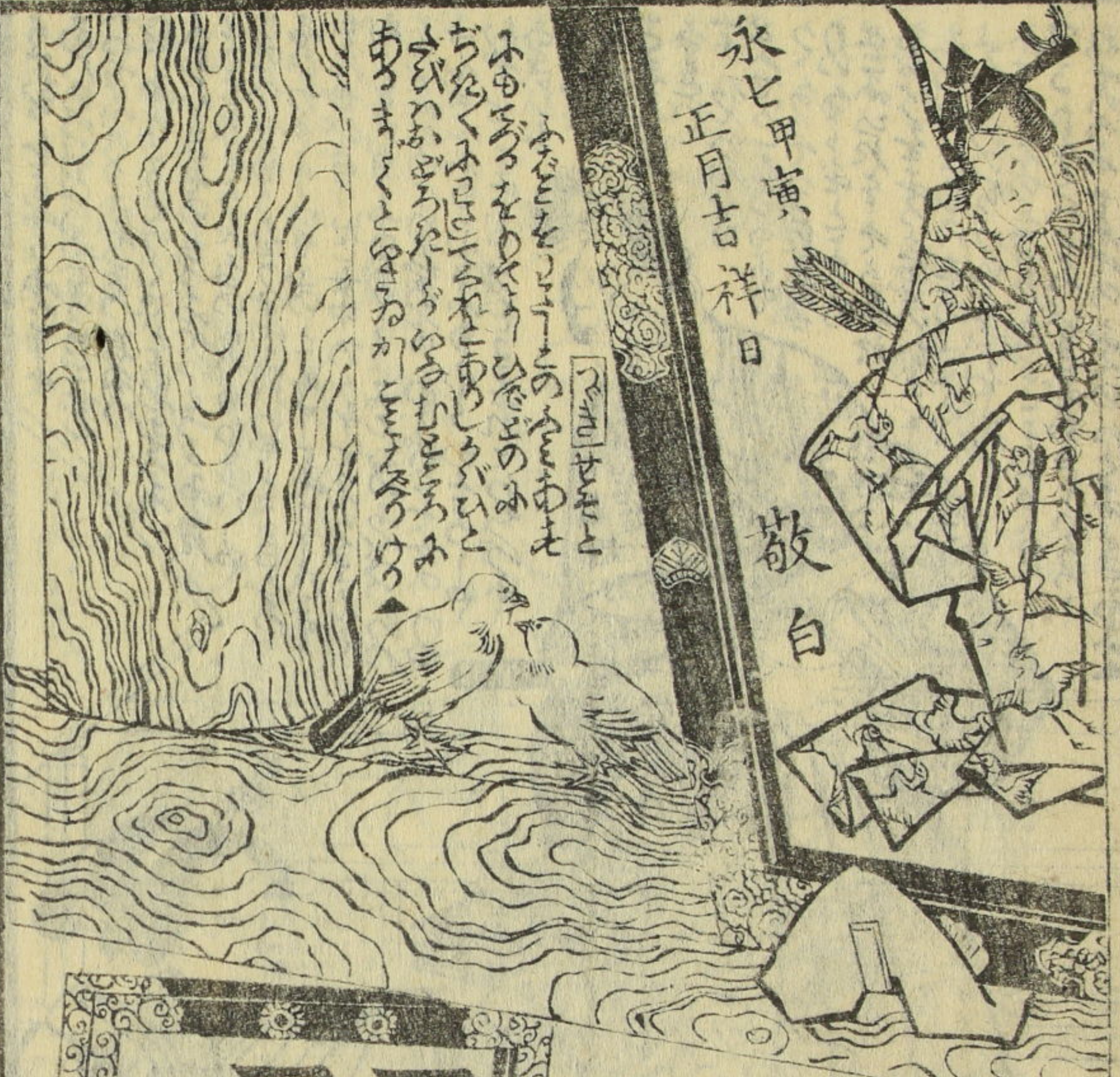
女中用文壬子箱
山東庵
山翁作

雛鶴笹湯壽
同作
豊國画

宮城志摺
七州白揚
結塵の子紳屋小説
霧空中樓花咲作
一陽齋豊國画

造榮櫻最紙
松編戸
追々出板一猛齋芳虎画

此の通り... (vertical text columns describing the items)

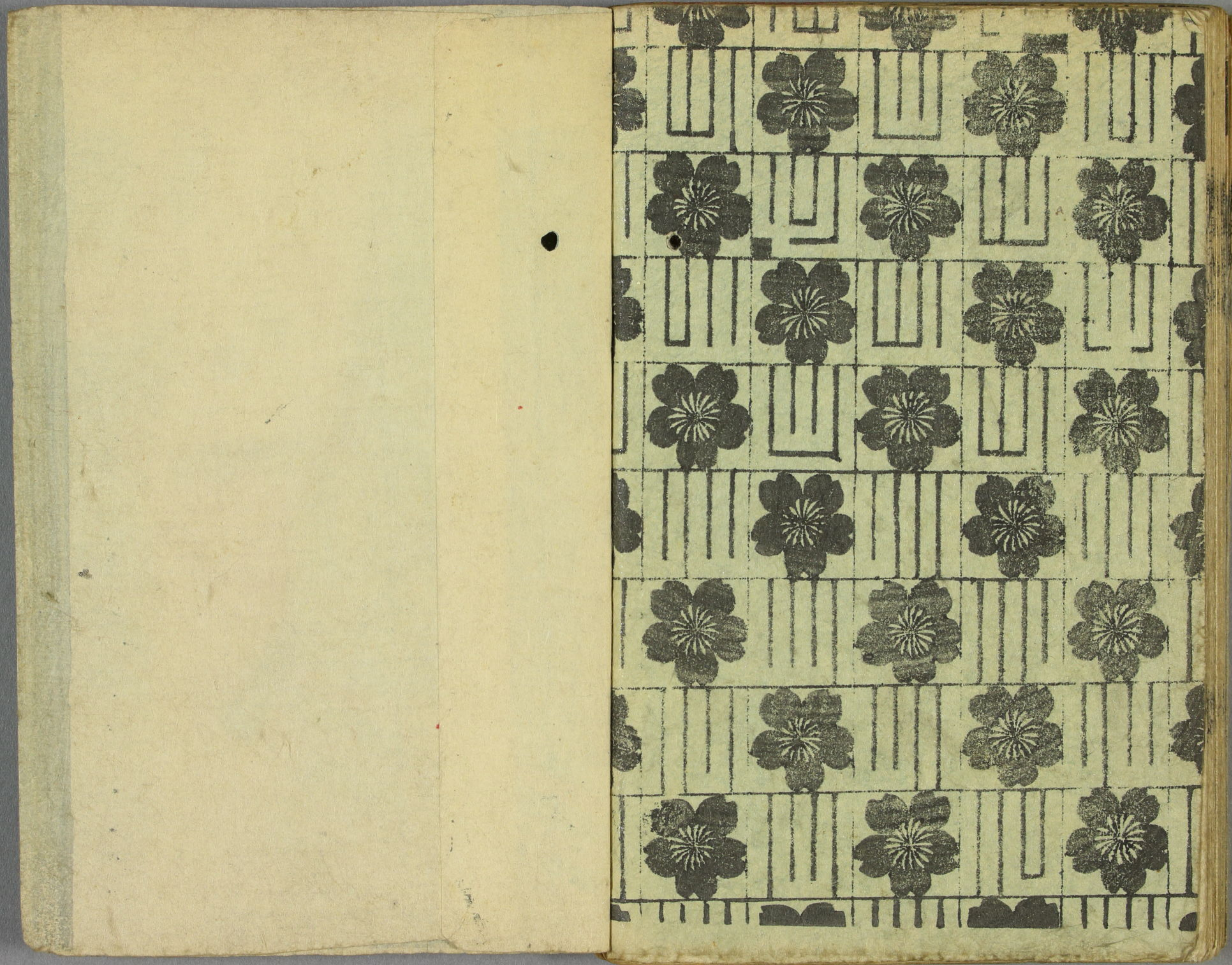


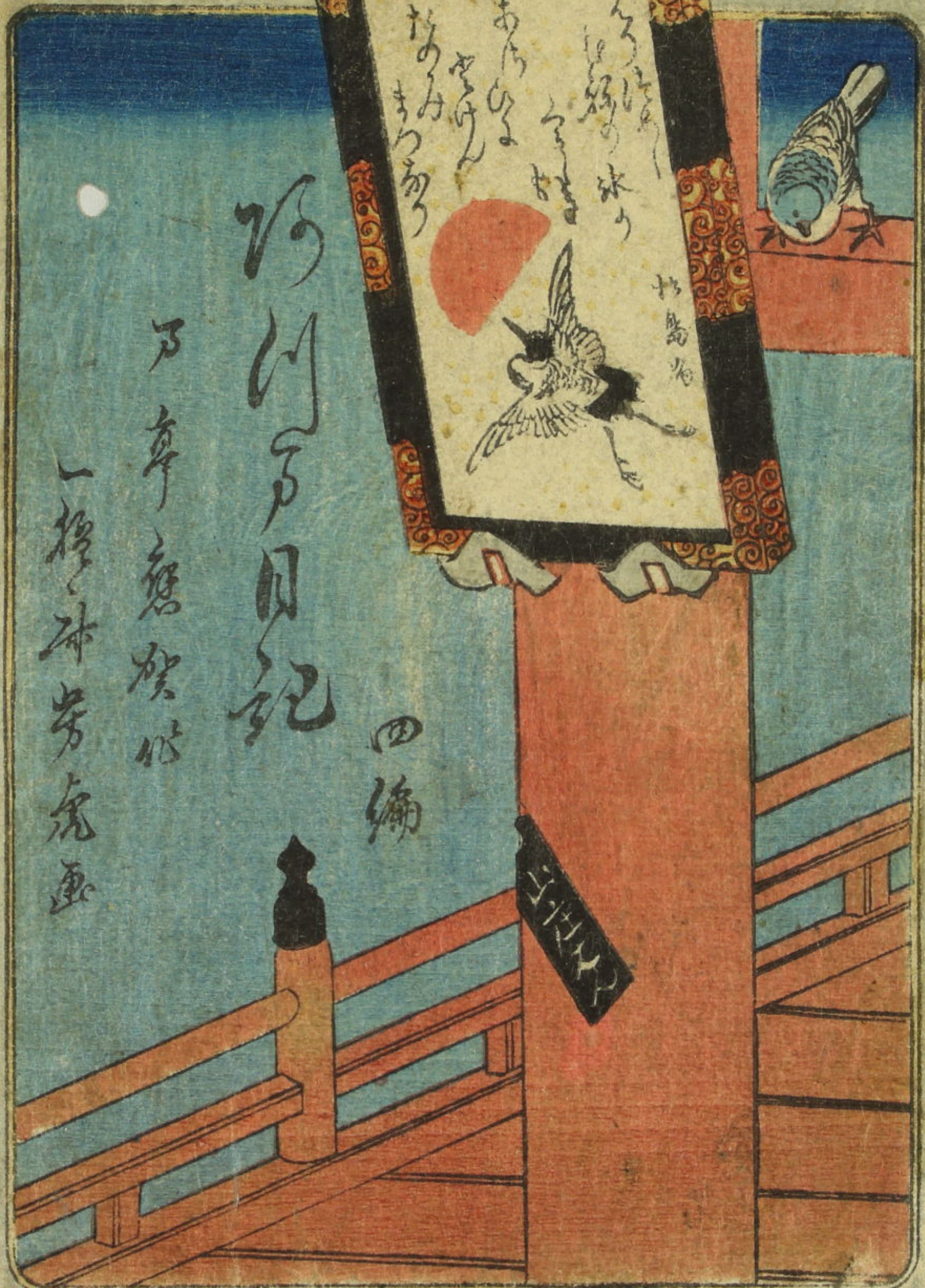
永七甲寅
正月吉祥日

敬白

万亭應賀作
一猛齋芳虎画
板元 錦橋堂敬白

▲まろとか... (vertical text columns describing the items)





河川日記

乃亭意候作
一松本芳虎画

四編

五十二